

清水高原^(きよみずこうげん)歳時記（長野県道完走編）

≪長野県山形村≫^(やまがたむら)

第15集

（長野県道 1 号線～508 号線）

NO.99 県道 77 号線（長野上田線）で千曲川左岸を走る

（長野県道 77 号走破）（長野県道 462 号＝自転車道）

NO.100 乗鞍高原のヒルクライムコースを走る

（長野県道 84 号走破）（長野県道 300 号走破）

NO.101 碓氷美術館（大系線穂高駅）から西条駅（篠ノ井線）

（長野県道 85 号走破）（長野県道 277 号走破）（長野県道 302 号走破）（長野県道 317 号走破）

NO.102 中山道八幡宿～岩村田宿と内山牧場・神津牧場・荒船風穴

（長野県道 44 号/群馬県道 44 号走破）（長野県道 154 号線走破）

NO.103 旧^{かなえ}鼎町・春選抜優勝校(飯田長姫)・旧松尾村・旧伊賀良村^{いがら}

（長野県道 230 号走破）（長野県道 231 号）（長野県道 232 号）（長野県道 444 号）

NO.104 須坂イオンモール 2025 年秋開業（須坂市～中野市）

（長野県道 29 号走破）（長野県道 54 号走破）（長野県道 344 号走破）（長野県道 357 号走破）

NO.105 アザレアラインからびーナスラインを通り 2 本の和田までの県道

（長野県道 67 号走破）（長野県道 178 号走破）（長野県道 283 号走破）

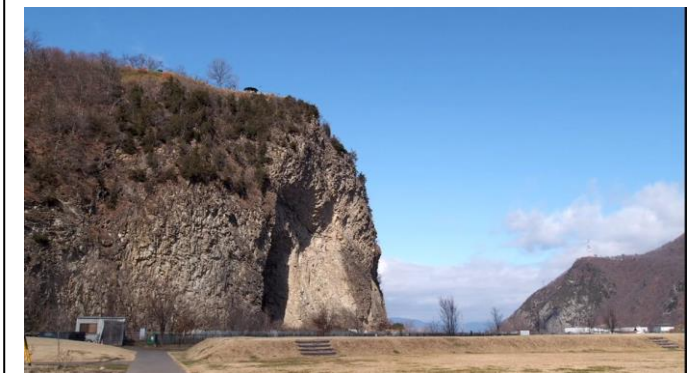
県道 77 号線(長野上田線)で千曲川左岸を走る

澤田 繁 著

(長野県道 77 号走破)(長野県道 462 号=自転車道)

県道 77 号線(長野上田線)は、川中島から上田駅付近まで、千曲川左岸を走る道である。学生時代(1970 年前後)から度々走っている。国道 18 号線が混むための迂回路としての利用が多い。孫が出来てからは、稲荷山(千曲市)から上田アリオに遊びに連れて行く事が多くなり、メイン道路として県道 77 号線を利用してきた。

2021.2.9 三才山トンネルを抜け、佐久駅からさらに下仁田方面まで足を延ばした帰りに、上田駅近くまで行き、県道 77 号線の上田地区を走りました。国道 141 号線から中央 1 丁目交差点(県道 77 号終点)に出ました。一旦上田駅方面に向かい、右折し天神 2 丁目の交差点を左折し、昔からのガード下をくぐり、千曲川に出ました。「上田橋」を渡りましたが、左手には「上田電鉄別所線」の鉄橋が見え、2019 年の台風によって崩落した時から、修復された(3 月末には運行された)姿の赤い鉄橋が見えた。川を渡った所は 1921 年までは「^{しろした}城下村」であった所で、現在の御所・諏訪形・小牧・中之条地区が、それに相当する。この地区



は今では上田市街地となっていて住宅地が多い。中之条から下之条地区に入ると徐々に住宅地がまばらになって、「岩鼻」で有名な山にぶつかる。山肌に沿って進み、上田坂城バイパスの下を通り、新たに出来た岩鼻の周りをぐるっと回る道を通り、その先が通行止めだったので、半過トンネル手



前まで登って行った。上田坂城バイパスの「半過トンネル」開通は 2010 年で、同時に小網交差点までのバイパスも完成した。県道 77 号線は、「半過トンネル」を通った後 800m 先を左折するとすぐに県道 77 号線になるので戻って通行止めの場所まで行った。県道 77 号線は、上田市の小泉地区から坂城町に入った。

岩鼻(いわばな)、上田市と坂城町との境付近にある名勝。千曲川の両岸を崖同士が向き合う。右岸の崖は上田市と坂城町の境に在るが左岸の崖は上田市に在り坂城町との境からは離れている。長野県の天然記念物。『源平盛衰記』で**塩尻狭**と記された場所であり、古くは**岩端**、**岩花**、**巖華**とも書いた。千曲川を挟んで左岸の崖を**半過岩鼻**(はんがいわばな)といい、右岸の崖を**下塩尻岩鼻**(しもしおじりいわばな)または**塩尻岩鼻**(しおじりいわばな)という。前者は柱状節理が発達した石英角閃石ひん岩、後者は緑色凝灰岩をそれぞれ主体とする。この地質の差異は、崖間に「千川断層」が存在することを示している。崖の高さは約 120m。

平坦な崖上面には河床礫が見られ、かつての千曲川の河床の高さがうかがい知れる。

これら 2 つの崖はもともと陸続きであり、冠着山と四阿山とを結んでいた。これを千曲川が浸食したことで、現在のような川を挟んで崖同士が向き合う地形となった。それまで岩鼻上流は大きな湖であったとされ、これを由来とする民謡や地名が東信地方（上田地域・佐久地域）の各所に残っている。

また、当地には大ネズミによって岩鼻が破られたことで、これより上流に存在した湖が失われたとする伝承がある。そのあらすじは次の通りである。かつて多くの子ネズミを従える大ネズミが村に住みつき、田畑を荒らし回っていた。困った村人たちは大きなネコ（唐猫）をけしかけ、大ネズミを岸壁まで追い詰める。大ネズミは死に物狂いで岩壁を食い破ると、湖の水がほとぼしり、大ネズミや子ネズミ、そして唐猫ともども流れ去った。岩鼻付近には「鼠」という地名があり、一説にはこの伝承に由来すると考えられている。

いつも岩鼻にある穴をねずみの穴と言って、長い間なんの事だか分らなかったが、少しわかった。また流された「唐猫」の死骸を葬った「^か良根古神社」が矢代の渡し（篠ノ井塩崎）のすぐ横にあった。上田アリオには、孫の家からは、まずは部分開通している、坂城更埴バイパスをはしり、県道 77 号線に入り上山田温泉を抜け、坂城町に入り、完成している上田坂城バイパスに入り、千曲川を渡ってすぐ川沿いの土手道路にはいり、そのまま上田アリオに行っていた。

上田市から坂城町に入った県道 77 号線は、旧村上村（上五明・上平・網掛）を走る、最初から半分は山がすぐ近くに迫る所であった。残りは耕作地と家が交互に現れる所でもあった。村上交差点までは信号はなか



った。坂城町から千曲市力石に入って、前には力石中心地を走っていたのが、県道 77 号線バイパスが出来たので、ここでは耕作地を走っている。上山田地区に入ると人家が多くなり、上山田温泉の温泉街（写真・狭い部分が今でも 400m 程ある）を通り抜け、県道 77 号線（千曲川左岸）でも山と川が迫っている場所の「佐良志奈神社前の信号」に出た。この日は、ここから右折して国道 18 号線にでて、マックで孫の土産を買い、稲荷山の孫の家に寄り、姨捨スマートインターから帰宅した。

「佐良志奈神社前の信号」を戸倉駅方面にはいかないで、直進すると県道 77 号線の続きとなる。ここからは、2003 年（平成 15 年）に千曲市になるまでは、^{とぐら}戸倉町であるが、この左岸一帯は昭和 30 年までは、^{さらしな}更級村（若宮・羽尾・須坂）であった、更級小学校は現在も存在している。ここを通過し、八幡地区に入った。



八幡村・稲荷山町・埴生町・屋代町が合併し、更埴市になったのは1959年（昭和34年）であった。1996年（平成8年）には、中央高速と上信越道が交わり、更埴（当時の市名）JCT が誕生した。

この地帯は、古くから交通の要衝であり、塩尻からの善光寺街道と小諸からの北国街道、さらに谷街道（松代街道）も一緒になる所であった。稲荷山宿には、まだ少し面影を感じる所が残っている。

県道77号線は、八幡上町交差点で国道18号線の坂城更埴バイパスの一部（治田小学校前～八幡上町交差点）が2008年に開通していたので、稲荷山の孫の家から上田アリオには、バイパスを通っていた。県道77号線は左折せずに直進してすすむと、式水別神社（通称八幡神社）の鳥居にあたる。鳥居をくぐると左にずれる道路があるので道なりに進む、ときどき、名物のうづら餅を買うため、神社内にはいるには、そのまま真っすぐ進む、神社内に入り駐車スペースに車を止めて「うづら餅」を買い、時には食べて休む。本格的な

お詣りは、二人の孫の行事関係が、ほとんどこの神社で行いました。

県道77号線を北上していくと、善光寺街道と一緒に、稲荷山宿に入っていく、2013年には塩崎バイパスが開通し、路線も2020年には、バイパス中心の路線に変わった。稲荷山宿を出ると、長野市篠ノ井塩崎に入る。このあたり、坂城更埴バイパスの延伸工事が、そうとう前から行われているが、進まない。県道77号は塩崎バイパスを通り、篠ノ井橋北交差点まで進む。

北国街道は、千曲川を「矢代の渡し」で行き来した。県道77号線から少し入り、神社「軻良根古神社」の横の道を土手に上がった所（自転車道）から見る事が出来た。現代では新幹線が通っている。この自転車





道は、この先 600m が終点の県道 462 号線（上田千曲長野自転車道）になっており、千曲市の区間では、よく孫たちが一輪車レースに出たり、そのための練習会の参加などで利用した。

篠ノ井橋北交差点からは、旧国道 18 号線になる。学生時代（1970 年頃）は、川中島からは、国道 18 号線はようやく整備工事が始まっていた頃で、今ではこの間商業施設が立ち並ぶ区間になっている。当時、北国街道は県道であった。

4 車線の篠ノ井バイパスが完成したのが 1987 年で、これにより国道 18 号線はバイパスに路線変更になり、川中島から篠ノ井間の国道は県道 77 号線（時期は不明）になった。

篠ノ井市は、布施村から名称変更され篠ノ井町に、1959 年（昭和 34 年）に塩崎村と合併し篠ノ井市になったが、7 年後の昭和 41 年に長野市と合併した、短い市となった。

川中島町は、1956 年(昭和 31 年)に昭和村と川中島村が合併し川中島町となり、昭和 41 年に、篠ノ井市・更北村・信更村・七二会村・松代町・若穂町と合併し長野市となった。

川中島白桃と川名島白鳳はブランド品として、今でも栽培されている。地域名が残っていくようになればいいと思います。地域によっては、その地域に行くと地域名が表示されている所もありました。



<http://www.go.tvm.ne.jp/~sawada/saijiki/saijikihome.htm> 歳時記ホームはこちら

《長野県山形村》(やまがたむら) 2024.9.9

乗鞍高原のヒルクライムコースを走る

澤田 繁 著

(長野県道 84 号走破) (長野県道 300 号走破)

2022.6.28 自宅から波田から国道 158 号線に出て、岐阜県方面に、奈川渡ダムを過ぎ、前川渡交差点（標高 1020m）を左折し、県道 84 号線（乗鞍岳線）に入りました。ダム湖を渡り、谷沿いをしばらく行き、尾根に出る道を登ると、乗鞍高原に入る。ここから（標高 1200m）から標高 1500m には人家もあり、広い高原の一部になっている。パン屋があったり、温泉宿があったり観光面の多くの建物もある。若い時には、テ



ニスの合宿を行った記憶もある。白骨温泉（右）と奈川温泉（左）に向かう十字路に到達した。直進 400m 程先が、何度か訪れた乗鞍スキー場で、風が強いイメージのあるスキー場、ここからは、山道になってスキー場に沿って登る。冬は通れなかった、三本滝のレストハウス（標高 1810m）まで車で来てしまった。スキー場としても、一番上のいい斜面のコースがある場所である。車はここまでで、ゲートが見えた。駐車場に車を止めて、周りを見ていたら、バスが来てゲートの方に向かっていました。慌ててゲートに向かって走って行って、バスで往復できるか聞いたら、頂上手前まで行って、しばらくして戻るとの事。県道制覇のため、躊躇せず乗り込んだ。曲がりが多い山道を更に登り、標高 2200m くらいに山荘があった。景色は次第に良くなって、標高 2620m の肩の小屋口のバス停に着いた。今日はここまでのバス路線であったが 7 月 1 日からは、豊平のバス停（標高 2716m）まで行けるようだ。すぐそばに雪渓でスキーを楽しむ人も見え、頂上近くまで登った感じがした。30 分ほどで帰りのバスが出たので、それに乗って三本滝まで戻って来ました（県道 84 号走破）。乗鞍に行ったのが、まだ自家用車規制が無い時だった、当時岐阜県側から「乗鞍スカイライン」を走った。長野県側からも「乗鞍エコーライン＝現長野県道 84 号線」からも道路があったが 2003 年から自家用車規制が始まってしまった。車に戻り、下って来ました。奈川と白骨に行ける交差点（写真）に来ました。少し奈川方面に進んでみました。乗鞍高原といえば芝生が多く道のそばには、「ひなたわらび」が良くあった



気がしていたが、木も成長して背の低い林が多くなっているように思えた。「水芭蕉」も良く見に来た所だ。この奈川までの道、昔スーパー林道で売り出したが、当時舗装でなかった気がするし、結構奈川までは道のりが長かった。今回は、ツツジ園（レンゲツツジ）まで走り、引き返した。再び交差点に戻り、そのまま直進して白骨温泉に行きました。

林道安曇奈川線は、白骨温泉までは人家のない山道でした。山並みを一つ越えたところが白骨温泉で、途中「蛭窪隧道」のトンネルがあった。白骨温泉は、あちこちに旅館が点在している感じの温泉で、最初に見えたのは「泡の湯」で一度友達のリハビリに付き合った旅館である、当時おおきな露天風呂が目についた。さらに進むと、県道 300 号線の起点（？）に着いた。300 号線の起点が良くわからなかったのも、奥の方に進むと、「湯元齋藤旅館」（写真）の前まで行って行き止まりだった。白骨温泉を出て県道 300 号（白骨温泉線）を湯川沿いの谷を走り、国道 158 号線に出た。この路線は、以前は良く土砂崩れなどで通行止めになる所だったが、2009 年から 2012 年にかけての道路改修工事によって通行止めはなくなった（県道 300 号走破）。その後国道 158 号線を走り、すぐ沢渡バスターミナルに到着し、そのまま国道 158 号線を走り、波田小学校前交差点から県道 25 号線に入り帰宅した。



【付録 1】乗鞍ヒルクライムレース・2024 年

毎年やっているレースで、テレビニュースでよくやるので、人数の多さが毎年伝わるレースである。2024 年は 8 月 25 日に開催された。気になるコースは、乗鞍観光センター前がスタート地点でこの場所の標高が 1460m ここから平均勾配 6.1% の山道を全長 20.5km 登り、長野県と岐阜県の標高 2720m の県境がゴールのコースとなっている。種目は年齢別や性別にわけられている。スタート時間は 6 時半から 8 時半まで順次スタートしていく、一番の種目はチャンピオンクラスで 80 分以内に登り切る実力とある。優勝タイムは 55 分 29 秒であった。人数の総数はわからなかったが、先着 4000 名との制限があった。ちなみに一般女子の優勝タイムは 1 時間 6 分 57 秒で、166 名エントリーで時間内完走者は、145 名で 145 番目のタイムは 3 時間 22 分でした。

【付録 2】乗鞍畳平クマ襲撃事件

2009 年 9 月 19 日午後 2 : 20 分頃、乗鞍畳平バスターミナルに、山から既に興奮状態で降りてきた熊が、次々と人間を襲い、10 名の人が重軽傷を負った事件があった。ターミナル付近には 1000 人の観光客がいて、すぐには、救急車や猟友会などの対応が出来ない場所であったため、大きな事件になった。

歳時記ホームはこちら <http://www.go.tvn.ne.jp/~sawada/saijiki/saijikihome.htm>

《長野県山形村》(やまがたむら) 2024.9.17

碓山美術館(大糸線穂高駅)から西条駅(篠ノ井線)まで 澤田 繁 著

(長野県道 85 号走破)(長野県道 277 号走破)(長野県道 302 号走破)(長野県道 317 号走破)

2024.9.17 自宅から県道 25 号線を穂高まで行き、北アルプス牧場直売店で、ソフトクリームを食べ休憩し県道 85 号線に向かいました。85 号線(穂高明科線)起点手前 500m に「碓山美樹館」があり、そこで少し車を止め写真撮影したあと、大糸線を越え、県道 317 号線(穂高停車場線)に出て、穂高駅や穂高神社の周りを走り、国道 147 号線にでた(県道 317 号線走破)。常盤町の信号から県道 85 号線は東に進み、穂高川を(手前には、ワサビ畑が見えた)渡り、北穂高地区に入り、更に高瀬川を渡ると、明科七貴地区にはいった。押野交差点で県道 51 号線と重複して下押野の交差点まで進み、この交差点を左折するとちょっとした小山を登っていく、この路線が国道 19 号線まで伸び県道 85 号線となっている(県道 85 号線走破)。



国道 19 号線を明科駅方面に南下し、東栄町交差点を左折した。ここから県道 302 号線(矢室明科線)になる。県道 302 号線は、旧明科町から旧四賀村に至る路線である。現在は安曇野市明科から篠ノ井線の上を通り、長野道の下を通過したところで松本市に入る。バス停四賀入口の案内があるところ通過し、あらためて

「四賀村」の存在に気付いた。四賀村は昭和 30 年（1955 年）に錦部村・中川村・五常村・会田村の四村が合併し出来た村で、2005 年に松本市に編入された。五常から会田に入りすぐ右折して、板場（錦部村）から反町（錦部村）・刈屋原町（錦部村）矢室の国道 143 号との交点の交差点（名前のない信号機）に到着した（県道 302 号線走破）。

国道 143 号線を北上し、途中、県道 302 号を写せないかと車を止めたところが、たまたま「シガマッコウクジラ発掘現場入口」だった。

昭和 61 年（1986 年）、保福寺川の露頭で地元の少学 5 年生がクジラの化石の一部を発見しました。これを受け昭和 63 年に旧四賀村によって大規模な発掘が行われ、マッコウクジラの全身骨格化石の掘り上げに成功しました。現在この化石を中心に松本市四賀化石館が開設させている。（写真、ピンク：クジラ、赤：県道 302



号) 国道 143 号線は、ゆっくり改良されている。会吉バス車庫までは改良されていました。そこからはカーブの多い山道を進み「会吉トンネル」を抜け、しばらく走ると、県道 277 号線との交点の十字路に出た。右折して

「河鹿沢」方面に更に山道を登ってみたら、開墾された地域があった。高原野菜などを栽培していて、そのまわりはきれいになっていて電気柵が十分敷かれていた。舗装の道がなくなった所で引き返した。

県道 277 号線（河鹿沢西条停車場線）は、国道 143 号線との交点（写真）から始まり、西条駅までの路線である。大沢に沿って谷間を下る道で、途中に「東条ダム」があり、この路線はすべて旧本城村



（現筑北村）を走っている。谷間が切れて 500m 程で、篠ノ井線の線路を渡り、300m で国道 403 号線に出た。国道を 400m 重複して走ると、西条駅への道（県道 277 号線のつづき）が現れたので左折して西条駅まで走った（県道 277 号線走破）。帰途に着き国道 403 号線から筑北スマートインターに乗り、塩尻北インターで降り帰宅した。



≪長野県山形村≫(やまがたむら) 2024.9.24
 中山道八幡宿～岩村田宿と内山牧場・神津牧場・荒船風穴
 (長野県道・群馬県道 44 号線走破) (長野県道 154 号線走破)

澤田 繁 著

2021.2.9 三才山トンネルを抜け、和田峠から来る国道142号線に入り、「道の駅女神の里たてしな」で休憩し、望月を通り佐久平に到着した。百沢東の三差路を左折し、県道44号（群馬県道・長野県道44号線＝下仁田浅科線）に入りました。記憶によれば、前は中山道を走っていた道が、少しお大回りする形の道路（現県道44号）の気がする。八幡宿と塩名田宿は4km程しか離れていないが、南北に暴れ千曲川が流れており、橋も掛けられたが洪水のたびに流され、川を徒歩か舟で渡ることが多かった。両方の宿場は、旅籠が10軒以下の小さい宿場なのに本陣・脇本陣が多くあった。（八幡宿：旅籠3・本陣1・脇本陣4、塩名田宿：旅籠7・本陣2・脇本陣1）、宿場町の趣は年々薄れてきている。望月町・浅科村・臼田町が2005年の平成の大合併で佐久市になった。

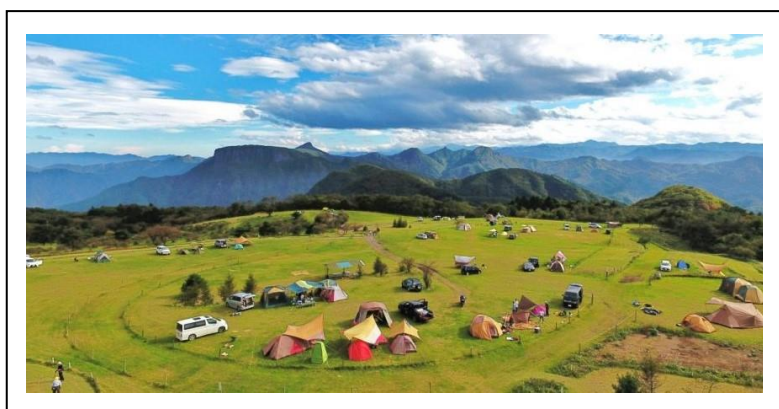


浅科村は、昭和 30 年に中津村(塩名田・御馬寄)と五郎兵衛新田村と南御牧村(八幡・蓬田・桑山・矢嶋)の三村が合併して作られた。県道 44 号線は、まずこの浅科



村を走る、塩名田までは、田んぼの中の道で 2 車線の整備された道路になっていた。佐久市塚原地区に入ると人家も多くなってきた、新幹線を越えると、佐久平駅から南に伸びた商店街の真中を通り、国道 141 号線と小海線を渡り、岩村田宿の相生町交差点に到達。旧中山道は、塩名田宿から相生交差点までは、ややせまい曲がりが多い道に人家がたっている状態で存続している。地区的には、旧中佐都村（昭和 29 年浅間町に合併）の塚原地区の南側を走る。国道 141 号線との交点の浅間病院西交差点からは、県道 154 号線と重複しており、岩村田高校の横を通り、踏切を渡り相生交差点に達して、ここから北上して追分に向かう。県道 154 号線は、どうも「佐久中佐都インター」とのアクセス道路として改良された道路のようで、現在は、浅間病院西から佐久大学入口までは国道 141 号線と重複しており、佐久大学入口交差点からインターまでむすび、そのまま延長して、県道 78 号線との交点の落合北交差点に至る（2022.10.4 県道 154 号線走破）。さらに県道 103 号線を改良して国道 254 号線とも結ばれている。県道 154 号線は、ほとんどが旧高瀬村（昭和 29 年浅間町に合併）の鳴瀬地区の北側を走る。

2021.2.9 県道 44 号線の旅はつづく、相生町交差点を東に進む、開けた所から谷に向かって進み、緩やかな登りの谷間の道沿いには、谷間深く深くまで人家があった。相生町交差点から約 10km で谷間を外れ山道に入った。標高差 300m 程登ると、内山牧場（現在牧場はやっていない）に着いた。あとで、ネットで見たら、牧草地を利用して



秋のコスモスは、3 万ヘクタールに 100 万本のコスモスが咲く乱れる観光地と、荒船キャンプフィールドと



して、標高 1200m にある天空のキャンプフィールドとして人気が高いとあった。内山牧場を素通りしてすぐ群馬県に入った。この先通行止めになっていたので、44 号線をあきらめて、県境からすぐ国道 254 号線の旧道を通り、国道 254 号線に出て下仁田方面に向かった。途中「薫のコンニャク屋」で休憩し、下仁田インターから帰宅の途に着いた。

2024.9.24 県道 44 号線の群馬県側を走りに出かけた。甘楽まで行き、かねふく明太パークで食事をしてから下仁田に戻り、国道 254 号線を佐久方面に進みました。途中「下仁田歴史館」を見学し、荒船風穴と蚕糸の事を頭に少し入れました？。県道 44 号線の始点が難しかった、現在とは違うかもしれないが、国道 254 号線の旧道が存在しており、旧道からが始点のようだ。気合で 44 号線始点を探しにいったが、見事行き過ぎて旧道を結構走ってしまいました。引き返しやっと始点にたどり着きホットする間もなく、狭い道の登りになりました。山道を登って（始点から約 3km）行くと集落があり、そこに風穴に一番近い駐車場の表示があったので、車を止めて歩きましたが、300m の山道の登りはきつかった。受付でアンケートを出し、「荒船風穴・10 周年記念誌」をもらい、さらに「神津牧場」のソフトクリーム無料券までもらいました。荒



船風穴は、蚕の種の保存所（富岡や全国各地の種を扱う）で、明治から昭和初期まで冷房設備が無い時に活躍した。ガイドさんがいて、詳しく説明してくれた。私としては、風穴の原理や温度の年間分布に興味があった。岩が崩れて台地になった、そのすきまが基本構造のようだ（自然洞窟を想像していた）。写真は第3貯蔵を石垣で作った、この上に作業小屋があった。見学を終わり、駐車場に戻り、県道 44 号線を風穴の受付横を通り、神津牧場に向かいました。少し登ると、傾斜の緩やかな場所になり、神津牧場の牛舎の横に出た。県道 44 号線は、牧場の中を走っており、いろいろな建物があつたが放牧の牛は、道からは見えなかった。神津牧場は日本最古の様式牧場で、ジャージー牛と緑がいっぱいの山岳ファームで、自家製バターやチーズ、乳製品、肉。ソーセージ等を販売している。ソフトを食べて出発、旧国道 254 号線と重複し、県境近くまで来た（県道 44 号走破）。そのまま旧国道を走り、長野県に戻った。



り、神津牧場の牛舎の横に出た。県道 44 号線は、牧場の中を走っており、いろいろな建物があつたが放牧の牛は、道からは見えなかった。神津牧場は日本最古の様式牧場で、ジャージー牛と緑がいっぱいの山岳ファームで、自家製バターやチーズ、乳製品、肉。ソーセージ等を販売している。ソフトを食べて出発、旧国道 254 号線と重複し、県境近くまで来た（県道 44 号走破）。そのまま旧国道を走り、長野県に戻った。

《長野県山形村》(やまがたむら) 2024.9.27

旧鼎町・春選抜優勝校(飯田長姫)・旧松尾村・旧伊賀良村

澤田 繁 著

(長野県道 230 号走破)(長野県道 231 号走破)(長野県道 232 号走破)(長野県道 444 号走破)

2022. 1. 25 飯田山本インターで降り、飯田の南部(中央道から天竜川間)を走り、飯田インター付近に戻って来ました。飯田インター東交差点から県道 15 号線に入り、切石体育館前の交差点を右折し、妙琴公園入口の交差点に到着しました。ここが県道 230 号(青木東鼎線)の始点となり、松川と飯田線に沿って下って行く道となる。飯田で気になる単語が「飯田長姫高校」・「^{かなえ}鼎」・「飯田松尾」であった。鼎は昔から読み(今



は読める)も書きも出来なくて、言葉に意味もあるならそれもわからないままでしたので、調べて見ました。市町村としては、現在飯田市であるが 1984 年に編入されるまでは鼎町(昭和 29 年から)であった。明治 8 年に山村・名古熊村・一色村の 3 村が合併し鼎村が出来た。その時、初代鼎小学校の校長が「古来中国に伝わる・3 脚の器=鼎」と村名を付けたとのこと。県道 230 号は、ほとんど山村の地域を走り、下山村駅前で、飯田線の踏切を渡り、終点である東鼎の交差点で国道 256 号線に合流した(県道 230 号走破)。

この路線から飯田市街を見ると、崖の上に存在している。崖の先端に「飯田城(長姫城)跡」があり、大正 10 年(1921 年)に城跡に開校した「飯田職業学校」から「飯田商業」にかわり「飯田商工学校」等を経て 1949 年(昭和 24 年)「長野県飯田長姫高等学校」と改称した。野球が盛んだった少年時代に、何度か聞いたのが甲子園の優勝校「飯田長姫」であった、1959 年(昭和 29 年)春の選抜、小さな大投手(光沢毅)の活躍で優勝した。1982 年に県道 230 号線の南 400m の鼎名古熊に移転、2013 年に「飯田長姫」と「飯田工業」が統合し「長野県飯田 OIDE 長姫高校」になった。

2022. 1. 25 東鼎の信号を右折し、国道



256号線を南下した。飯田線を越え、伊那八幡駅交差点を左折し、100mで伊那八幡駅前に到着した。この100mの道路が県道231号線（伊那八幡停車場線）である（県道231号線走破）。伊那八幡駅からは、もう一本県道がある。県道232号線（新井伊那八幡停車場線）は、駅から飯田線に沿って北上し100m程で踏切を渡る。東に進み天竜川に架かる弁天橋に出る。弁天橋西交差点が232号線の終点であり、県道18号線との交点になる。ここまでは住宅地と耕作地が入り乱れている感じの道であった。ほとんどが旧松尾村（明治22年毛賀村と島田村が合併し松尾村になる、昭和31年に飯田市に合併）を走る道で、飯田市のベッドタウンのようだ（県道232号線走破）。県道18号線を飯田方面に向かい上溝橋を渡り道なり（市道）に市田駅まで北上し、松川インターから帰宅した。

2022.1.25 飯田山本インターで降り、飯田の南部（中央道から天竜川間）を走り、飯田インター付近に戻って来ました。飯田インター付近に戻る時に、県道444号線（駄科大瀬木線）を使いました。県道237号線で駄科駅を通り、駄科交差点から国道151号線を走り、鈴岡公園入口交差点を右折し、県道444号線に入った。河岸段丘を登ると、「鈴岡城址公園」の入り口があり少し登ると公園があった。鈴岡城跡を散策し、出丸まで行き、松尾城跡を眺め、そこまで歩くのをためらい戻りました。



県道444号線は、終点の飯田インター東交差点までは、丘陵地を緩やかに登る道で、人家もあり、耕作地もある道であった。駄科地区を除けば、旧伊賀良村（明治22年、大瀬木村・北方村・上殿岡村・下殿岡村・三日市場村・中村が合併伊賀良村（第二次）が発足した、昭和31年飯田市に合併）の下殿岡・上殿岡・大瀬木地区を走っている県道であった（県道444号線走破）。

【付録】鈴岡城・松尾城

鈴岡小笠原氏の居城である。小笠原氏は政康の死去後、府中（深志）小笠原氏、松尾小笠原氏、鈴岡小笠原氏に分かれて対立したが、鈴岡城は鈴岡小笠原氏の居城であった。

天文23年（1554年）、武田信玄の伊那侵攻に際して松尾小笠原氏の小笠原信貴・小笠原信嶺父子は信濃先方衆として活躍し、松尾城を回復したが、鈴岡小笠原氏の小笠原信定は敗れ、落城した。

毛賀沢川の谷を挟んだ北側には松尾小笠原氏の松尾城があり、その後は松尾城の支城として使用された。現在は鈴岡公園として整備されている。

《長野県山形村》(やまがたむら) 2024.9.30

須坂イオンモール2025年秋開業(須坂市から中野市)

澤田 繁 著

(長野県道 29 号走破)(長野県道 54 号走破)(長野県道 344 号走破)(長野県道 357 号)

須坂長野東インターの北側に「イオンモール須坂」が 2025 年秋に開業になります。最近近くを通ると「ルートインホテル」(客室194)の建物が現れ、2024年12月末開業の運びのようです。規模は県内最大となり、駐車数では3700台で松本イオンの2300台を大幅にうまわり、車社会の長野県では、人の購買範囲が広く、周りには大きな影響がでる。長野市内では、大型商業施設の計画がある度つぶされてきた。隣接する須坂市に、いよいよ出来る。

須坂駅周辺も、これを機に復活されればいいなと思います。須坂に初めて行ったのは、学生時代であり、社会人になりたてに、実業団テニスの団体戦に仲間と共に初めて遠征した地でもある。このころの須坂は、富士通須坂があり、商店街も活気があった。

2020.10.20 須坂駅周辺を走りました。須坂駅から東に、春木町南の交差点までは、県道 344 号線(須坂停車場線)で、駅前の店舗と、国道 403 号線までは、少しの店舗があり須坂に行くと「ちよか盛進堂」の菓子店に寄る。国道を過ぎると、ほとんどが住宅地の街並みになる(県道 344 号走破)。

2020.10.13 銀座通り周辺を走りました、銀座通りは、谷街道の須坂宿の中心であったところで、街道筋を活かした店舗が広がりを見せていた。中町交差点を右折すると上中町交差点で国道 406 号線にで、更に行くと「遠藤酒造所」があり、国道を左折した所に酒店の駐車場があり、そこに車を止めて買い物をした。この先には「須坂陣屋」があったようだ。このあとは、国道 406 号線から国道 403 号線を使い、春木交差点から県道 112 号線を走りに行きました。春木町南交差点からは、県道 54 号線(中野須坂線)と一緒に東に進んだ。この日は県道 112 号線との分岐点まで県道 54 号線を走った。須坂には市民の山として鎌田山(通称かんだやま)があり、標高差 495m で登り 6 分でいい景色が望める所とか、ひな人形の展示が有名な「田中家本家博物館」などがある。

2021.2.23 姨捨スマートインターで降り、長野西部の七二会付近を走り、長野市を東西に横断し、須坂長野東インター付近に来ました。この日は、よくばって県道 54 号線の残りを走りに来ました。国道 403 号の幸高交差点から県道 58 号線に入り、西に進み仁礼交差点



で国道 406 号線に、須坂方面に戻り坂田町交差点を右折し「鎌田山トンネル」を抜け、県道 54 号線との交点の本郷交差点に到着し、右折し県道 54 号線の残りを走りに向かう、しばらく県道 112 号線と重複して走り、**高山村**に入り、荒井原の三差路で県道 112 号線と左折し別れて進む、村の中心地から少し離れて西側を通って進むと、高山村役場が右上に見えた。松川を渡ると、**高山村中山地区**にはいり、県道 66 号線を横切り、600m 程行くと、人家がなくなり田んぼになる、さらに 600m 程行くと、ゲート（柵）があり、先には進めなかった。ここから通行不能のようだ。**間山峠**の向こうにある県道 54 号線を探しに出発した。小布施町の県道 358 号線を中野市延徳まで行き、市道を通り県道 54 号線の交点にたどり着いた。山間の扇状地にある集落をゆっくり登っていくと、集落がなくなり田んぼだけになり、県道 54 号線のナビの表示も消えてしまいました。消えた先田んぼ道を 100m 程走ると、狭い山道に入った。ここで引き返しました。こちら側の県道 54 号線は、**旧日野村**（明治 22 年間山村・新野村・高遠村・更科村・小田中村で発足、1954 年（昭和 29 年）に中野市になる）を主に走り、中野市結成の中心になった**旧中野町**にはいる。中野市街地にはいかずに、東側の山沿いに近い道を北上し、国道 403 号線の県道 54 号線の終点でもある一本木栗和田の信号に到達（県道 54 号線走破）。この日は、国道 403 号線と志賀中野有料道路通り、中野インターから帰宅した。

2022. 3. 8 長野市周辺を走り、小布施町に回り、県道 358 号線（第 5 週 34 作）を走り、その続きで県道 29 号線のほとんどと県道 357 号線を記します。県道 358 号線の終点である中野市吉田交差点に向かう手前に新町交差点がある。ここが県道 357 号線（中野停車場線）の終点である。新町交差点から信州中野駅を往復してから吉田交差点に向かった（県道 357 号線走破）。吉田交差点から 403 号線との交差点（江部）を横切り、中野インター入口まで進む、この間に北陸新幹線が横切るが、この先の千曲川からは地下トンネルで旧長丘村（昭和 29 年中野市発足）まで北陸新幹線は、行っているのだから見ることが出来ない。インター入口を横に進むと千曲川に出る。千曲川に架かる「立ヶ花橋」を渡るとすぐに国道 117 号線との交点（立ヶ花橋西交差点）に到達、県道 29 号線終点でもある。直進するとすぐ蟹沢トンネルにはいるが、左折し長野方面に向かい、国道 19 号線で帰宅した。



2023. 12. 5 須坂から始めた北信濃くだもの街道の終点である中野西高校前の三差路から谷街道に入り中野市街を走った（第 5 週 34 作）続きで、県道 29 号線の残り区間を走りました。吉田交差点から西 2 丁目交差点は、飯山方面からの帰り（2020. 10. 20）に走っていたので、市内をぐるぐるまわりながら西 2 丁目から飯山口までを探して走り、さらに飯山口から新井交差点まで走って、国道 403 号線から志賀中野有料道路を通り、中野インターから帰宅した（県道 29 号線走破）。

県道 29 号線は、旧中野町（中野町・一本木・西条）⇒旧平野町（吉田・岩船・江部・片塩）⇒旧高丘村（安源寺・草間・立ヶ花・牛出・栗林）（赤字は主に県道 29 号線が通る地域を指す）を走る。中野市の発足は、昭和 29 年（1954 年）の事で、中野町・日野村・延徳村・平野村・長丘村・平岡村・高丘村・科野村・倭村が集まった市で、2005 年には豊田村が加わった。

歳時記ホームはこちら <http://www.go.tvn.ne.jp/~sawada/saijiki/saijikihome.htm>

《長野県山形村》(やまがたむら) 2024.9.30

アザレアラインからビーナスラインを通り2本の和田までの県道 澤田 繁 著
(長野県道 67 号走破)(長野県道 178 号線走破)(長野県道 283 号線走破)

2022.6.21 信大病院に行き用事を済ませ、信大前の国道 143 号線を松本駅方面に、松本城の北側を通る道路と国道 143 号線の交点が、城東 2 丁目の交差点でもあり、県道 67 号線(松本和田線)および県道 283 号線(美ヶ原公園線)の始点でもある。ここから東に進むと、私が通った「清水中学」があり、惣社の三差路の信号を右にいくと、バレーボール部で遠征に来た「山辺中学」が横に、兔川寺(第 10 集「NO.77」)を通り、「山辺ワイナリー」に寄りワインを 2 本買いました。小さい頃ぶどうと言えば山辺と昔からの産地である。山辺中学あたりから里山辺地区に入り、ワイナリーあたりからは入山辺地域となる、入山辺地域は扉峠までの広い範囲である。ワイナリーを出ると、県道 67 号線は「薄川」の谷間を「扉温泉明神館」まで川に沿っての道である。途中(ワイナリーから約 4km)から、県道 283 号線との分岐がある(道案内 1)。道案内表示にあるように、県道の表示なしで(狭道・急坂)と表示されている道のように、県道 283 号線が単独になる道を走り始めました。急坂と言えば急坂かな?程度で、道幅は、乗用車同士のすれ違いが可能な道が全線確保されていた。石切り場まで走って車を止めて、昔登った登山道を探し散策した。



小学生の低学年頃、家族で「王ヶ鼻」まで登山をした、実家から松本駅から少し離れた旧バスターミナルまで歩き、「三城線」に乗って、石切り場のバス停で降りた。ここから登山を開始し、無事登頂し下山してきた。ここからが悲劇、バスに乗って帰るとばかりと思っていたのが、なぜかわからないが「徒歩」だった。県道 283 号線の道を、いつ着かわからない状態で、ひたすら歩いた記憶がいまだに残っている。里山辺に入り、薄川の土手道に移り自宅(薄川沿いにある源池小学校のすぐ近く)に着いた。

県道 283 号線は、石切り場からは山腹を走り、三城までであるが、三城手前で、県道表示がなくなり「松本市市道」になる。なぜかわからなかったが、地理院の地図に路線(山道)が表示されていたので納得した。山道は、最初は今の登山道でないが途中から「ダテ河原コース」と一緒になり山頂の「王ヶ頭」までの路線であった(県道 283 号走破)。



2022.6.21 三城から「よもぎこば林道」(11 月下旬~4 月下旬冬季閉鎖なので注意)を走り、扉峠まで到着した。尾根道ではなく、山腹を縫いながら登っていく道路で、以前は有料道路であったらしい。三城牧場は

昔からあるが、良く見たことがない、今回も素通りしてしまった。昔、小学校の（バス・登山・1泊）旅行できたことがあるが、三城までバスで来たが、三城での記憶が薄い、ここから登山開始し「百曲がりコース」を登った事、塩くれば・美しの塔まで高原を歩いた事、山本小屋の大きなテント小屋で宿泊した事を良く憶えているのだが……。三城までは、案内標識にある本道の道がある。2020.6.23 県道 283 号と県道 67 号線の分岐点から、県道 67 号線を選び川沿いを走って行くと、道案内（道案内2）があり、左折し狭くない谷間を走る道で「松本市市道」となっている。この三城までのルートと前のルートは城東 2 丁目交差点からここまで、後ろのルートは、よもぎこば林道で扉峠までを、観光イメージUPのため公募し「アザレアライン」と愛称を付けた。



道案内2を右折すると、県道 67 号線は、狭い道になり、中部電力の発電所の横を通り進むと、小さい時路線バスで来たことがある「扉温泉明神館」に入る道があったが、県道 67 号線を更に進むとすぐに三城に行く道が分岐している所まで行けた。ここからは、2013 年（平成 25 年）の土砂崩れのため、（復旧の見通しがたっていない）通行止めになっていた、思いだせばそれより前にも良く通行止めになっていた気がする。私が若い頃、通れていた時、車で和田村から扉峠を越えて扉温泉まで降りた、当時はまだ未舗装部分がほとんどだった。

2022.6.21 県道 67 号線は、扉峠からはビーナスラインと 800m 程重複しているところを走り、右折しビーナスラインから離れ、ひたすら山を下る道になる。依田川に沿って標高差約 600m を下って行くと、終点である国道 142 号線交点の旧和田村（現在は長和町字桂の木）に着いた。結構山道の割に道幅も広く、道路わきが整備されてすっきりした道路でした（県道 67 号線走破）。この日は、和田宿ステーションで休憩し、望月宿周辺を回り、東部湯ノ丸インターより帰宅した。

2022.11.22 松本市里山辺からアザレアラインを通り扉峠でビーナスラインに出た。美ヶ原方面に進み、県道 67 号線と分離する三差路を過ぎ、6km 弱標高 1600m 付近の山腹を走ると、県道 178 号線の始点の三差路があり右折して県道 178 号線（美ヶ原和田線）に入る。ひたすら山を下る道になる。依田川に沿って標高差約 800m を下って行くと、終点である国道 142 号線交点の和田宿本陣入口交差点に着いた（県道 178 号線走破）。県道 178 号線は、県道 67 号線と同じような感じであったが、川のすぐ脇を通る事が多く、谷が深く感じられた。国道 142 号線に出る 3km 手前からは集落や耕作地が現れ、中山道との交点（国道 142 号線から 200m）に和田宿があった。和田宿は江戸から数えて 28 番目の宿場で、難所の和田峠を挟んで、次の下諏訪宿までは約 23km の長い距離があった。和田宿の宿内家数は 126 軒、うち本陣 1 軒、脇本陣 2 軒、旅籠 28 軒で宿内人口は 522 人であった。和田宿は、車で通り抜けが出来るので、何度か車で通っている。

国道 142 号線に出て右に曲がるとすぐに、「和田宿ステーション」があり、通ると結構休憩に立ち寄る、食堂と農産物売り場があり、良く利用する。ここの農産物は安く感じたし、食堂は、何を頼んでも量が多かった。この日はまた望月宿周辺（南側の長者原など）を走り、佐久南インターから帰宅した。

